令和 6 年能登半島地震による津波の被害事例（速報版）

2024.1.7　金沢工業大学 有田 守

令和 6 年能登半島地震で発生した津波は震源が陸地に非常に近かったため第一波の津波の到達時間は気象庁のデータから輪島港で１分と非常に早く，最大波の到達時間は１１分でした．津波の被害は把握されている地点では震源に近い珠洲市での被害が大きく鵜飼漁港，飯田港周辺で浸水被害が発生していました．これは，津波ハザードマップで示されている被害の大きな箇所と良く一致しています．しかし，今回の地震の断層モデルで予測された津波高と現地観測された津波高さを比較すると実測値が 1／3 でありました．これは津波高が約 1.5m以上と予測された箇所で，津波高さが 1m 程度の箇所では現地観測結果と予測値はほぼ同程度であることが現時点の解析で分かっています．また，津波が到達する地点はハザードマップで予測される箇所と現地観測結果の対応が良い印象でした．

１月２日から土木学会海岸工学委員会の津波調査チームの一員として能登半島の調査に参加しています．珠洲市では津波高さが約 3.5m，津波遡上距離（汀線から遡上地点までの距離）が 130mある地点がわかりました．

写真１　津波浸水による被害の様子

写真２　残雪に残された津波の痕跡と調査の様子

写真３　残雪に残された津波の痕跡

写真４　家屋に残された津波の痕跡